

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和元年5月30日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ア. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実情に応じた教育課程の編成について</li> </ul> <p>イ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍生徒の在留資格についてや日本語指導等における教職員研修や教材作成について</li> <li>・個に応じた教育課程の編成について</li> </ul> <p>ウ. 環境整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間中学校専任スタッフ(通訳等)の配置や奨学金制度などによる教育活動における支援のあり方について</li> </ul> <p>エ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な入学希望者への就学機会の提供のあり方について</li> </ul>
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在、入学時点では殆ど日本語を話すことのできない外国籍の生徒が大半を占め、母語での読み書きができない生徒もいる。日本国籍の者も帰化・引揚げ帰国が多くを占めている。そのため、中学校の教育課程の学習以前に小学校の教育課程や日本語習得が必要である。より効果的な日本語指導とそれに続く小学校、中学校教育課程の指導方法を研究し体系化していきたい。また、より効果的な日本語指導に必要な教材の開発も進めていきたい。</li> <li>○ 義務教育既卒者の入学者もあり、外国籍や高齢の生徒など様々な生徒の実態の合わせた指導方法や教材の開発を、教職員研修を重ねることで進めていきたい。</li> <li>○ 生徒の実態に合わせた指導をサポートするスタッフを配置することで、学習指導・生活指導・進路指導等を進めていきたい。</li> <li>○ 夜間学級に入学しなければならない生徒たちの多くは、国籍にかかわらず、様々な生活上の困難を抱えている。生徒達が日本の社会で安全、安心な生活を営むための「いきる力」を習得できるよう学習指導も含め生活指導にも力を入れ、その指導方法を記録、工夫していきたい。</li> <li>○ 現在、春と秋に入学を受け付けているが、積極的に多様な生徒を受け入れていくにはどのように体制づくりをしていけばよいのか研究していきたい。</li> </ul>

調査研究の成果	<p>◎本年度の取り組みについて</p> <p>ア. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7組～4組までの日本語を主体とした課程のクラスでは、例年と同じように日本語の習得状況に応じて7組→6組→5組→4組と半期ごとに学級編成を行い進級させた。また、進級はしたが家庭状況などの理由により出席が難しい時期があり、高齢などのため学習成果が定着せず、ついていけなくなった生徒は本人と相談のうえ元のクラスに戻した。</li> <li>・3組～1組は本来の中学校教育課程での編成である。個々の状況により個別の指導を行なっているが、高齢のため学校で長い時間過ごせない者・働き盛りのため思うように登校できない者が多い等の理由により学習進度に差ができた。また、既卒者の入学、問い合わせも数件あり、そのため、例年以上に個別の対応が必要となり教材等の工夫をした。</li> <li>・進学予定の生徒には、専任スタッフの通訳のもと保護者、本人と進路懇談し、学校説明会にも参加した。また、日々の授業前と長期休業中に補習等の学習体制を実施し、高校進学に取り組んだ。</li> <li>・本校で学習してきたことを基に、自分の思いを作文にして披露する作文発表会を年2回実施し、年度末には文集にして校外にも配布している。</li> </ul> <p>イ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導力の向上のため研修を行い、本年度も大阪YWCAを訪ね、日本語指導の模擬授業を参観し、後に教授方法などの研修を受けた。また、その席で大阪YWCAと本学級で連携できることはないか論議した。</li> <li>・研究授業での指導方法の改善はもちろん、自主教材の作成には力を入れた。</li> <li>・外国籍生徒が増えてきたこともあり、在留資格等について出入国管理局職員による研修を行なった。</li> </ul> <p>ウ. 環境整備に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任スタッフ(通訳)の配置により様々な行事に参加をする際の通訳や進路説明会や保護者との進路懇談、新聞等の取材の通訳など取組みを円滑に進めることができたように思われる。</li> <li>・傷んだ棚板を張り替えたり、廊下にみんなで作った作品を展示していつでも見られるようにして、落ち着いて学校生活を送れるように心がけた。</li> </ul> <p>エ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の昼の生徒との交流や、他の中学校の生徒との交流を行った。</li> <li>・結核検診における精密検査等の指導、学校検診における精密検査・特定検診等も病院等への付き添い、また国民健康保険の請求や滞納の対応等について市役所・保健所等への相談援助を行</li> </ul>
---------	--

った。

- ・府営住宅、市営住宅申し込みの書類の書き方等の援助。
- ・生活保護関連の手続き援助
- ・就学援助関連の手続き援助
- ・健康について相談対応
- ・生徒の新たに渡日した学齢期の子弟の教育相談等の対応
- ・通学定期関連の手続き援助
- ・夜間中学校の周知や生徒募集についての広報活動

#### ◎成果について

夜間学級のことを知ってもらう取組みを進めてきたことで、義務教育既卒者の入学や学びなおしの問い合わせが増えてきた。

本学級には外国籍生徒が多数在籍しており、日本語指導力の向上は、本学級の最優先課題の一つであるが、毎年研修を重ね、それぞれの教師の方向性の確認や、修正すべきところを少し見いだすことができた。しかし、それぞれ個別の学習理解度や学習進度には個人差があり、課題は尽きない。

また、外国籍生徒の在留資格や出入国管理等について研修を行った。職員が研修を重ね、これからさらに増えてくるであろう外国籍生徒への学校や日本での生活アドバイスや進路指導等にいかしていきたい。

不登校による既卒者の学びなおし生徒については、中学校区に派遣されているスクールカウンセラーとも連携して取り組んでいかなければならない。

生徒指導、生活指導の相談の中で外国籍生徒の課題を捉え、教科指導、教材作成等に活かしている。また、通訳を交えた進路相談を行い、進学希望者への補習を日々の課業前や長期休業中に行なうことにより、生徒の不安や心配事を取り除き、出席しやすくすることにもなっている。しかし、どうしても生活が優先となり、出席したくてもできない生徒は多い。

高齢の就学機会を希望する生徒、日本のことをあまり知らない外国籍の生徒、不登校経験者生徒の入学や、これから増えてくることも考えられる既卒生徒にとって、夜間学級は学習できる場所である以上に、安心できる居場所であり、なんでも相談にのり、一緒に考えてくれる信頼する教師のいるところであり、特に高齢の生徒たちにとっては重要なセーフティーネットとなっている。また、高校進学を考えているものもいるが、卒業生のほとんどが、夜間学級での継続した学習を望んでいる。